

CO・OP 共済における ライフプラン・アドバイザー (LPA) 活動について

日本コープ共済生活協同組合連合会 渉外・広報部長 毛利 弘

(1) ライフプランニング活動とは

ライフプランニング活動とは、組合員がくらしの保障やお金について学ぶ活動です。中心的なテーマである「保障の見直し」の学習では、組合員が本当に必要な保障を自ら選択する力をつける手助けをしています。

コープ共済連では、この活動の担い手となる組合員や職員を対象に「ライフプラン・アドバイザー（以下、LPA）」を養成しています。LPA 養成セミナーの受講者は、コープ共済連所定の講座でライフプランニングや保険、税金、金融等について総合的に学習し、修了後に LPA となります。

(2) なぜ生協がライフプランニング活動を行うのか

生協では 1984 年から助け合いの心をカタチにした「CO・OP 共済」という保障商品を取り扱っています。ところが、CO・OP 共済をおすすめする中で、多くの組合員が生命保険等に多額の保険料（日本生協連の生計費調査によると家計支出の 9.5%）を負担しているにもかかわらず、「契約内容についてよく理解していない」「必要保障額に対して契約している死亡保障が大きすぎる」「死亡保障はたくさんあるが、入院保障がない」「遺族年金や高額療養費制度等の社会保障についてよく知らないため、不要な保障を付けている」といった「ムリ・ムダ・ムラ」のある保

険に加入している実態が明らかになってきました。

そこで、CO・OP 共済《たすけあい》の元受共済事業を開始して 10 周年に当たる 1994 年に、「組合員の保障商品選択眼を養い、自立した消費者づくりをサポートする。その中で CO・OP 共済への出会いの機会をつくる」ことを目的として、ファイナンシャル・プランナーの小野瑛子氏を講師に「保障の見直し講座」を実施しました。

おりしもバブル崩壊後の収入の伸び悩みや、保険会社の勤める契約転換の弊害が問題になっており、保険の見直しに対する消費者の関心も高まっていました。生協で講演会を実施すると、「保障の中身をよく知り、よりわが家に合うものを選びたい。そして不要な保険料の支出を抑えたい。」という組合員がたくさんつめかけました（12 生協で 3,010 名が参加）。またこの講演を通じて、組合員が CO・OP 共済を学ぶことにもつながりました。

しかし、ひとりの講師が対応できる講演には限界があります。この知識を全国の組合員に伝えるには、もっとたくさんの講師が必要です。そこで、生協の職員や組合員が保障やお金について学び、「まだこの知識を知らない組合員に保障の見直しの知識を伝えよう」ということになりました。

(3) 生協とライフプランニング活動

従来からライフプランの見直しは、家計簿活動やくらしの見直し活動のなかで行われてきましたが、生協が組織的にこの活動の展開を提起したのは前述したとおり1994年からです。

組合員のくらしが厳しく、将来への不安が増大する中、くらしの協同をすすめる生協として、よりよいライフプランづくりを広めることはもっとも根源的な組合員活動であると同時に、もっとも新しい分野でもあります。

ライフプランニングの中に、より良くくらしを実現するための要素として「3つのM」(図1)という考え方があります。

生協はこれまで「健康づくりのプラン」で食を支え、「生きがいづくりのプラン」で組合員活動を中心としたさまざまなサポートを行ってきました。ライフプランニング活動はもう一つのMである「資金づくりのプラン」を支える活動です。ライフプランニング活動を発展させていくことで、生協全体で組合員のくらしをトータルにサポートすることができます。

組合員一人ひとりが賢い消費者となり豊かな生活を過ごすことができるよう、「組合員がライフプランニングという考え方とその有

効性を知ること」「組合員同士の学びあいをささえるLPAとなること」が必要になってきました。

(4) ライフプランニング活動の発展

1997年以降の保険会社の経営破綻、2007年の保険金不払いなどが社会的問題となるなど、社会の状況とともにライフプランニング活動も大きく広がっていきました。

1994年に28名からスタートしたLPA養成も、2015年度末までに105生協3,774名となりました。このうち組合員LPAは1,476人で、組合員同士の学びあいの場を支えています。(図2)

2014年度は全国で49,951人の方がライフプランニング活動に参加しました。(表1)

ライフプランニング活動は2016年度で23年目を迎えます。以前のように必要以上の保険に入る人は少なくなりましたが、逆に「若年層の無保険世帯」や働く女性が増えたことによる保障の考え方の変化に対応できていない「保障不足世帯」も増えています。時代とともに問題の中身は変化しますが、「保障の見直し」はライフプランニング活動のメインテーマとなっています。

図1 3つのM

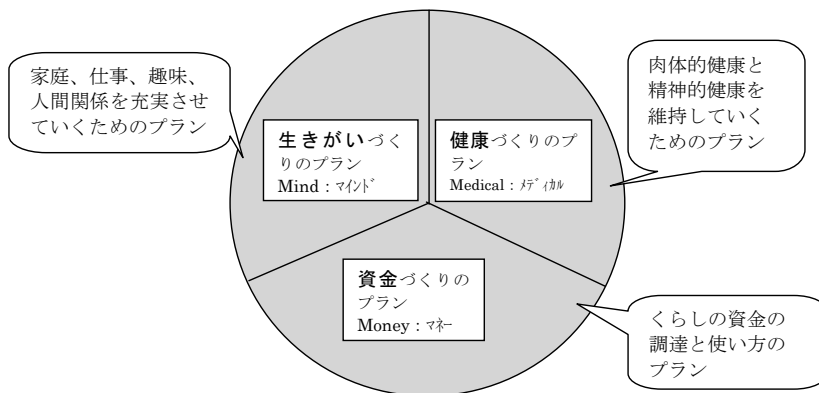


図2 LPA数の推移（1994年度～2015年度）

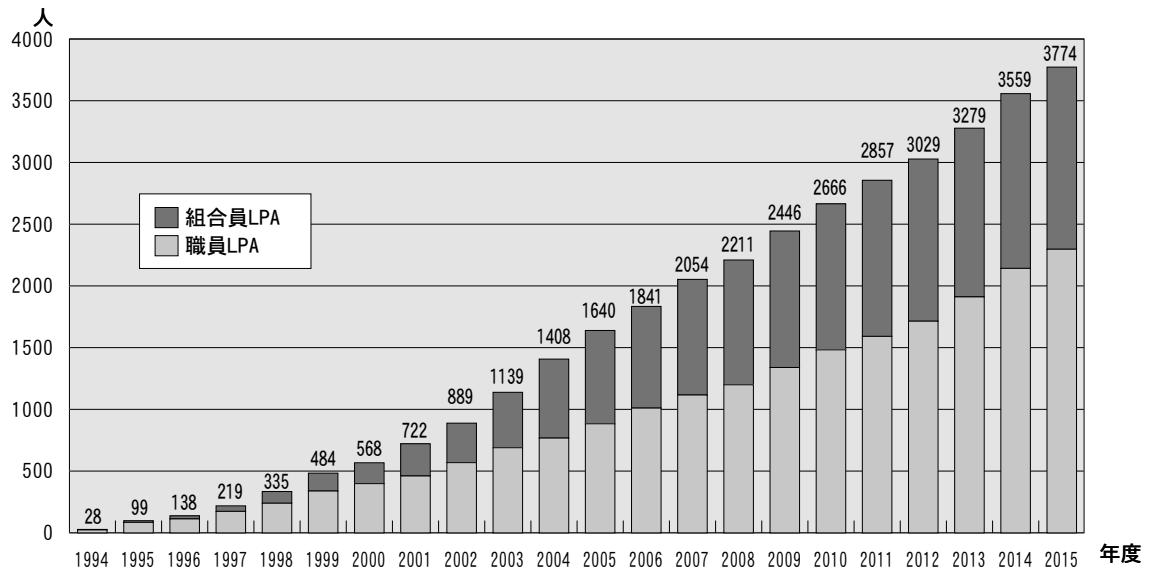


表1 2014年度 49,951名 参加者数と開催した会場数（いずれも延べ数値）

企画名	参加者人数 (会場数)
① 講演会 ～ 外部講師の講演会 日本赤十字社の学習会を含む ～	8,310人 (122会場)
② 学習会（子ども向け以外） ～ LPAが行った学習会・くらし設計WS・ライフプラン講座・職員向け学習等 ～	23,001人 (1,835会場)
③ 学習会（子ども向け・親の人数も含む） ～ おこづかいゲーム・金銭教育など ～	3,731人 (112会場)
④ 個人相談～ ニーズにあわせた相談活動 ～	1,293人
⑤ 川柳募集企画（テーマ：子ども～子どもに一言！～）	1,295人
⑥ その他 ～ 生協まつり、LPAフェア参加など ～	7,486人
⑦ ホームページアクセス件数	4,835人
合計	49,951人 (2,069会場)

(5) ライフプランニング活動の内容

生協のライフプランニング活動では、主に以下のようなことを行っています（生協によっては行っていない活動もあります）。

くらしの見直し講演会	社会保障・医療・子育てなど、くらしに役立つ様々な知識を身に付ける場として、専門家やファイナンシャル・プランナーなど外部講師を招いて行われる講演会です。
学習会	保障をはじめ、くらしのお金全般（社会保障・税金など）についてより深く学びたいという声に応えた学習会です。テーマを絞り、質問やワークが行いやすいように、より少人数で開催しています。
個人相談	講演会や学習会では対応できない、一人一人の状況や要望に沿った相談を受けています。
その他	<p>くらし設計ワークショップ 2回のワークショップと「かんたん・かけいぼ」を活用しながら自分のくらしや将来のお金について語りながら学べます。</p> <p>ライフプランニング川柳 ライフプランにかかわるテーマにそって川柳をつくって応募できます。</p> <p>ホームページ上の学習 コープ共済連のライフプランニング活動のホームページでは、ライフプランシミュレーションなど各種のツールで学習できます。</p>

(6) 学習会のテーマ

LPA が講師を担う学習会では「保障の見直し」に必要な社会保険や税金だけでなく、ライフプラン全体にかかわるテーマのニーズも増えています。

【主な取り扱いテーマ（保障の見直し以外）】

◆こどもの救急時の対応や災害時の生活支援方法の学習

日本赤十字社とタイアップして講師派遣を行っている企画。日本赤十字社のプログラムをもとに生協用にカスタマイズしている。

◆子どもの金銭教育

ライフプランニング活動10周年を記念して全国で行った企画。以降各生協オリジナルの子ども向け企画に発展している。

◆中・高校生を対象にした自転車事故防止学習

中・高校生の自転車による賠償責任事故が増えているため、事故を防止するためのプログラムを設定。このプログラムは2011年に「キッズデザイン賞」（主催；特定非営利活動法人キッズデザイン協議会）を受賞。

◆エンディングや介護、葬祭など終活に関するもの

組合員の高齢化に伴い、近年需要が増えている企画。生協の他の事業ともコラボしやすいことから、実施が増えている。

◆FP講座

FP3級合格をめざす組合員のための講座。お金に関する知識が求められることから、実施が増えている。

学習会の一例

2015年7月16日に、「子どもに関わる『保険』の話」をテーマに学習会を開催いたしました。

- ①教育費を盛り込んだ学資保険
- ②医療費助成制度を絡めた子ども保険・共済
- ③個人賠償責任保険
- ④自転車保険

という順序で進めました。



参加者の声

- ・保険はとても大切なことだけれど、どこでどうやって教えてもらえるのかわからないので、今日の講話はとても良かったです。
- ・子どもは医療費助成だけでなく、少額のものでも保険に入っておいたほうが良い、ということが分かりました。個人賠償責任保険の大切さも分かりました。
- ・子どもが1人で行動するようになり、親の目の届かない所で何が起こるかわからないので、自分にあった保険をしっかりさがそう、と思いました。
- ・自転車事故で考えてもみない賠償額に驚きました。自分にもふりかかる現実なので、まずは考え直さなくてはいけない、と実感しました。

(7) ライフプラン・アドバイザー (LPA) の役割

ライフプランニング活動における LPA の役割、心得、社会的役割などを「ライフプラン・アドバイザー (LPA) の役割」としてまとめたものです。

ライフプラン・アドバイザー (LPA) の役割

私たちは、組合員にライフプランニングの大切さを伝え、一人一人が自分の人生をデザインできるようにお手伝いします。

1. 組合員が保障や資金計画、さまざまなくらしのサービスについて気軽に相談できる身近な窓口をめざします。
2. ひとりの生活者として組合員の立場に沿ったアドバイスを心がけます。
3. 正確な情報を伝えるために常に幅広いテーマについて学び続けます。
4. コンプライアンスに取り組み、社会的信頼を高めます。
5. 活動を通して生協の意義を伝え、生協の発展に寄与します。
6. 安心してらせる地域づくりをめざし、広く情報を伝えます。
7. 学びあう仲間を増やしながら、いきいきと活動を続けます。